

心を抑えよ、兄弟たちよ

いつもふさわしい御霊にとどまってほしいのであれば、怒らないことを選ばなければなりません。

トーマス・S・モンソン大管長

兄弟の皆さん、わたしたちは力強い神権者の組織として、ここカンファレンスセンターだけでなく、全世界の会場に集っています。今晚、わたしたちは靈感あふれるメッセージを聞きました。話してくれた幹部の兄弟たちに感謝します。皆さんに話す特権があることを榮譽に思いますが、同時に謙虚な気持ちにさせられます。主がわたしに靈感を与えてくださるよう祈っています。

最近、テレビでニュースを見ているときに気づいたことがあります。トップニュースはどれも本質的には似たようなものであり、報道される悲惨な事件は皆、基本的には一つの感情に端を発していたのです。それは、怒りです。乳児の父親が、その子を肉体的に虐待した罪で逮捕されました。申し立てによると、乳児の泣き声にカッとなった父親は、乳児の腕を折り、あばら骨も数本折ったというのです。犯罪組織による暴力がエスカレートしているという報道は気がかりでした。暴力団が関与する殺人事件は急増しているとのことでした。その晩はもう一つ、女性が銃で撃たれた事件が報道されていました。撃ったのは別居中の夫です。妻がほかの男性と一緒にいるところを見て嫉妬に怒り狂ったのだそうです。もちろん、その後は、世界中で起こっている戦争や紛争など、いつものニュースでした。

詩篇の言葉が心に浮かびました。「怒りをやめ、憤りを捨てよ。」¹

随分昔のことですが、若い夫婦がオフィスに電話をかけてきました。アドバイスが欲しいのでオフィスに行っていいかという問い合わせでした。家庭で悲しい出来事があり、離婚の危機に直面しているとのことでした。わたしは会う約束をしました。

彼らがオフィスに入ってくると、二人の間に張り詰めた空気があるのが見て取れました。夫はぽつりぽつりと話し始めます。少しずつ事情が分かってきました。妻は声を殺して泣くばかりで、ほとんど口を挟みません。

この若者は伝道から帰ると、合衆国東部の名門大学に入学しました。大学の学生ワードで将来の妻と出会ったのです。妻も同じ大学の学生でした。1年間の交際の後、ユタ州に旅行してソルトレーク神殿で結婚し、その後すぐ、学業を終えるため東部に戻りました。

二人が卒業して故郷の州に戻るころには、妻は最初の子供を妊娠し、夫は自分が選んだ分野で仕事に就いていました。妻は男の子を出産します。順風満帆の人生

でした。

息子が1歳半になるころ、短い休暇を取って、数百キロ離れた所に住む親族のところに遊びに行くことにしました。チャイルドシートがない時代のことです。大人用のシートベルトもあまり知られておらず、使っている人もいませんでした。よちよち歩きの息子を真ん中に挟んで、家族3人は皆前の席に座りました。

この旅行の間、夫と妻の意見が合わないことがありました。昔のことですから原因は思い出せません。しかし、口論は激しさを増すばかりで、最後にはののしり合うようになったらしいことは覚えています。当然のことながら、幼い息子は泣き始めました。夫によると、この泣き声は怒りをあおるばかりだったそうです。すっかりかんしゃくを起こした夫は、息子が座席に落としたおもちゃを拾い上げ、妻に向かって投げつけました。

おもちゃは妻には当たらず、息子にぶつかりました。その結果、息子は脳に傷を負い、一生治らない障がいを負うことになってしまったのです。

これは、わたしが出合ったケースの中でも最も悲惨なものの一つです。わたしはこの夫婦に助言し励ましました。わたしたちは献身と責任、相手を受け入れて赦すことについて話し合いました。愛と尊敬について話し合いました。彼らの家庭には、この二つがよみがえる必要がありました。聖文から慰めに満ちた言葉を読みました。一緒に祈りました。遠い昔のその日以来、この夫婦からは何の便りもありません。二人は涙を流しながらも笑顔を見せて、オフィスを後にしました。この夫婦がやり直す決意をし、イエス・キリストの福音に慰めと祝福を見いだしていってくれればと、長い年月ずっと願ってきました。

次の言葉を読むと、いつもこの夫婦のことが心に浮かびます。「怒りは何も解決しない。怒りは何も生み出さず、かえってすべてを破壊する力を持つ。」²

だれでも怒りを感じたことがあります。それは、物事が思うようにいかないときかもしれません。自分のことであるいは自分に対して何かを言われて込み上げる感情かもしれません。思ったとおりのことを人がしてくれないときにそのような感情を覚えるのかもしれません。予想していたよりも長く待たされた場合に出てくる感情かもしれません。恐らくわたしたちは、人が自分と同じ目線で物を見てくれないときに怒りを感じるのでしょうか。怒りを呼び起こす原因は、数え切れないほどあるようです。

傷つけられたと思ったり、不当な扱いを受けたと感じたりすると、憤りを覚えることがあります。第7代大管長のヒーバー・J・グラント大管長は、大人になったばかりのころのことを次のように話しています。ある人に雇われて働いたとき、雇い主が500ドルの小切手を送ってきました。小額で申し訳ないという手紙が添えられていました。次に、グラント大管長は別の人のもとで働きました。その仕

事は、グラント大管長によると、前の雇い主の仕事より10倍も難しく10倍の労力を必要とし、はるかに時間がかかったそうです。しかし、この2番目の雇い主が送ってきたのは150ドルの小切手でした。若いヒーバーは、不当な扱いを受けたと感じました。最初はばかにされたように感じ、そのうちに怒りが込み上げてきました。

グラント大管長はこの経験を事細かに年上の友人に話しました。すると友人は、「その人は君をばかにしようとしたんだろうか」と聞いてきます。

グラント大管長は答えました。「いいえ、友人の話では、わたしには気前よく払った、と言っていたそうです。」

これを聞いて、年上の友人はこう答えました。「相手にはそんなつもりもないのに、ばかにされたと受け取るのは愚かなことですよ。」³

使徒パウロは、エペソ人への手紙第4章26節のジョセフ・スミス訳で、次のように問いかけています。「あなたがたは怒りながら罪を犯さずにいられようか。憤ったままで日が暮れるようであってはならない。」そこで、質問です。怒っているときに、天の御父の御霊を感じることはできるでしょうか。どんな場合でもできないということをわたしは知っています。

モルモン書の第3ニーファイには、このように書かれています。

「論争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。……

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」⁴

怒るということは、サタンの力に屈することです。わたしたちを怒らせることができる人はだれもいません。怒りはわたしたちの選りなのです。いつもふさわしい御霊にとどまってほしいのであれば、怒らないことを選ばなければなりません。これは可能だとわたしは証します。

怒りはサタンが使う手であり、多くの点で有害です。

トーマス・B・マーシュとその妻エリザベスの哀れな話はたいいていの教会員が知っていると思います。マーシュ兄弟は、教会がこの地上に回復された後に現代の

使徒として最初に召された人たちの一人です。最後には十二使徒定員会の会長にまでなりました。

聖徒たちがミズーリ州ファーウェストに住んでいたころ、トーマスの妻エリザベス・マーシュと、友人のハリス姉妹は、牛乳を持ち寄ることにしました。大きなチーズを作るためです。すべてが公平に行われるよう、「後搾り乳」と呼ばれるものは取り分けず、通常の牛乳と後搾り乳を全部一緒にするという取り決めをしました。後搾り乳とは、搾乳の最後に搾り取る牛乳のことで、乳脂肪分が特に豊富に含まれています。

ハリス姉妹は取り決めを忠実に守りましたが、マーシュ姉妹は違いました。特別においしいチーズが作りたかったのでしょう、牛1頭につき1パイント（0.47リットル）ずつ後搾り乳を取り分けて自分のものとし、後搾り乳の入っていない牛乳をハリス姉妹に送り届けたのです。このことで二人はけんかになりました。意見の食い違いは解決できず、ホームティーチャーが呼ばれて判断を求められました。取り決めを守らなかったエリザベス・マーシュ姉妹に非があることが、ホームティーチャーには分かりました。その結論を聞いてマーシュ夫妻は憤慨し、教会法廷にかけられるためにビショップに提訴しました。ビショップの法廷で下された裁決は、後搾り乳は不当に取り分けられたものであり、マーシュ姉妹はハリス姉妹との取り決めを破ったというものでした。

トーマス・マーシュは高等評議会に控訴しましたが、高等評議員たちはビショップの裁定を支持しました。すると彼は、大管長会に控訴したのです。ジョセフ・スミスと顧問たちは、この件について検討した結果、高等評議会の裁定を支持しました。

この間ずっと妻を擁護してきたトーマス・B・マーシュ長老は、裁定が下る度に怒りを募らせました。実際、治安判事のもとに行って、「モルモンはミズーリ州に敵対している」と宣誓したのです。このときの宣誓供述書が要因、または少なくとも要因の一つとなって、後にリルバーン・ボッグズ州知事の非情な撲滅令が出されることとなります。その結果1万5,000人の聖徒が家を追われ、あらゆる苦難に遭った結果、多くの人が命を落としました。これらはすべて、牛乳とクリームを持ち寄る際の取り決めを守らなかったことが発端となって起きたのです。5

19年にわたって恨みを持ち続け、多くのものを失った後、トーマス・B・マーシュはソルトレーク盆地に戻り、ブリガム・ヤング大管長に赦しを求めました。マーシュ兄弟は、大管長会の第一顧問であったヒーバー・C・キンボールに対しても、自分が学んだ教訓について書き送っています。マーシュ兄弟はこう言いました。「わたしがいなくても主の業には何の支障もなく、主は、わたしがかつての地位から脱落したからといって何を失われたわけでもありませんでした。ところがわたしの失ったものは、何と大きかったことでしょう。全世界、あるいはこの地球のような惑星が幾つ集まっても差し出せないほど大きな富を失ったのです。」6

詩人ジョン・グリーンリーフ・ホイッティアの次の言葉がよく当てはまります。「舌が語りペンがつづる悲しい言葉の中で、最も悲しい言葉は、『ああしていればよかった』である。」⁷

兄弟の皆さん、わたしたちは皆、注意していないと、怒りにつながるような感情を抱きがちです。不満やいら立ち、敵対心を抱き、自らの選択により、かんしゃくを起こして人に怒りをぶつけます。皮肉なことに、ぶつける相手は、ほんとうはいちばん愛している家族のだけかであることが多いのです。

昔、新聞で、AP通信社の次のような特派員報告を読みました。「年老いた男性が実の兄弟の葬儀でこんな話をした。大人になったころからその兄弟と部屋を共有していた。ニューヨーク州カニステオ近くの小さな一間の小屋である。あるとき口論の末、チョークで線を引き、部屋を半分に分けた。そしてその日以来、二人はどちらもその線を越えたことがなく、言葉を交わすこともなかった。62年間、ずっとである。」この怒りの結末を考えてみてください。何という悲劇でしょうか。

意識して決断しましょう。怒りを遠ざけ、とげとげしい言葉や人を傷つけるようなことを言う誘惑に駆られても、そのようなことは言わないという決断をその度の下さなければなりません。

わたしは、チャールズ・W・ペンローズ長老が作詞した次の賛美歌の歌詞が大好きです。ペンローズ長老は、20世紀初頭に十二使徒定員会と大管長会で奉仕した人です。

心を抑えよ、兄弟たちよ
知恵の声をもて、これを導け
力は静けき思いに宿り
怒りは理性も眼も暗くする⁸

わたしたちは皆、神の権能である神権を持っています。神権の誓詞と聖約はわたしたち全員に当てはまります。メルキゼデク神権を持っている人にとって、それは神の律法に忠実かつ従順に従い、与えられる召しを尊んで大いなるものとするというわたしたちに求められていることに対する宣言です。また、アロン神権を持っている人にとっては、将来の義務と責任に関して、今ここで備えをするという宣言です。

この誓詞と聖約については、主の言葉で次のように説明されています。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召し

を尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。

これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。

主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。」⁹

兄弟の皆さん、わたしたちが持つこの尊い神権の誓詞と聖約を忠実に守るならば、大いなる約束が待ち受けています。わたしたちが天の御父にふさわしい息子となれますように。わたしたちが家庭で良き模範となり、すべての戒めを忠実に守ることができますように。どんな人に対しても憎しみを抱くことがなく、むしろ平和を作り出す人になれますように。救い主の次の教えを決して忘れることがありませんように。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」¹⁰ これが、今晚この偉大な神権部会を閉じるに当たってのわたしの願いであり、へりくだり心からささげる祈りでもあります。そのように願い祈るのは、わたしが、全身全霊を込めて兄弟の皆さんを愛しているからです。天の御父の祝福が皆さん一人一人の生活に、家庭に、そして心と魂に注がれますように、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。

注

1. 詩篇37 : 8
2. ローレンス・ダグラス・ワイルダー, "Early Hardships Shaped Candidates," *Deseret News*, 1991年12月7日付, A2で引用
3. ヒーバー・J・グラント, *Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編 (1969年), 288-289
4. 3ニーファイ11 : 28-30
5. ジョージ・A・スミス, "Discourse," *Deseret News*, 1856年4月16日, 44参照
6. トーマス・B・マーシュからヒーバー・C・キンボールへの書簡, 1857年5月5日, Brigham Young Collection, 教会歴史図書館
7. "Maud Muller," *The Complete Poetical Works of John Greenleaf Whittier* (1876年), 206
8. 「心を抑えよ」『賛美歌』198番

9. 教義と聖約84 : 33-38

10. ヨハネ13 : 35